

# 樹木表面の模様 作品に

米ニューヨーク在住の現代美術家で、信濃毎日新聞文化面のエッセー「思索のノート『水たまりの大きさ』」の挿絵を担当している宮森敬子さん(54)が、御代田町塩野の雑貨店「ペースアラウンド」で30日まで個展を開いている。樹木の表面の模様を手すきの和紙で木炭を使って写



「樹拓」を展示する宮森さん

## 「思索のノート」挿絵担当 宮森さん 御代田で個展

し取る「樹拓(ツリーロビング)」の技法で仕上げた作品約30点が並んでいる。

宮森さんはニューヨークだけでなく、中国やイラク、信州など各地に赴いて制作。平面作品以外に、巣箱や机、椅子などの立体作品もある。一見シンプルだが、模様は多彩。宮森さんは「こすり方や天候により、同じ作品は二度とできない。作品から『一瞬の輝き』を感じてもらえたらうれしい」と話す。

宮森さんは横浜市出身。大学時代は日本画を専攻し、大学院時代から現代美術を手掛けた。2000年ころから米國を拠点に活動。御代田の同店は友人の紹介で知り、16年から毎年個展を開いている。

27日午後6時から、エッセーの筆者で文芸評論家の加藤典洋さんが「白井晟一あきひこの『原爆堂』と私たち」をテーマに話す。要予約。無料。申し込みは同店(☎0267・32・7007)へ。